

2022 年度 事業計画書

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会

I. 2022 年度事業の方針

コロナ感染は様々な形で私たちの生活に影響を及ぼしました。発熱があり、息が苦しく救急車の搬送を依頼しても、受け入れ病院がなく、搬送できないまま自宅や施設で過ごさないといけないう医療崩壊が現実のものとなりました。恐ろしいことは、その事実がありながらもメディアでは報道がきわめて少ないということです。すでにコロナ感染がはじまり 2 年が経つと、人々の心は、麻痺しているように思えます。人口減少時代において、多死社会がもたらす看取り難民は、すでに現実のものとなりました。

エンドオブライフ・ケア協会の活動は、死を前にした人に対しても誠実に関わることができる担い手育成から出発しました。励ましも慰めも通じない絶望のなか苦しむ人に、安易な励ましではなく、援助的コミュニケーションをもとに、わかってくれる人として関わること。解決できる苦しみに対する援助だけではなく、解決できない苦しみに対しても、穏やかになれるその人の支えを、対話を通して紡いでいくとき、穏やかさを取り戻していく可能性が見えてきます。

2022 年度事業計画の柱は、エンドオブライフ・ケア協会が大切にしてきたこれらの実践をユニバーサル・ホスピスマインドとして新たに提唱し、社会実装していくことにあります。一部の人が行う、一部の人のためのケアではなく、すべての人が行える、すべての人のためのケアであるために、活動の輪を広げて参ります。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

代表理事 小澤 竹俊

II. 各事業について

(1) 「人生の最終段階」に対応できる人材の育成

2022 年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、主催する研修・イベント等はオンライン開催を基本とする。ただし、エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座の公開講座については、状況を見ながら、少人数の現地会場参加を受け付け、オンラインとのハイブリッド開催を企画する。段階的に、認定 ELC ファシリテーターが所在する地域でのサテライト会場の設置を視野に入れる。

また、土日午後 2 日（事前に e ラーニングによる自己学習）のプログラムを、土日いずれか 1 日のプログラムとしてリニューアルすることで、参加しやすくする。平日夜 4 回については引き続き、隔月開催する。

これらのプログラムを必要とする人が、業界内外問わず、講座に容易にアクセスできるように、紹介方法や申し込みシステムを刷新する。

(2) 職種や世代を超えて学び、実践するためのコミュニティを支援する活動

特定地域において、希望する場所で最期まで暮らせる体制づくりとして、現地人材と協働のもと、施設等の人材育成と地域福祉関係者との協力体制づくりを推進していく。(日本財団の助成事業として、昨年度からの継続。佐賀県唐津市はその一つ)

各地の認定 ELC ファシリテーターや「折れない心を育てる いのちの授業」認定講師がそれぞれのコミュニティでオンラインを含めて活動ができるように支援する。認定 ELC ファシリテーターと引き続き綿密な連携を図り、主催する講座やイベントでの活動を通してスキルアップをサポートする。

また、地域には様々な困りごとや、すでに活動している人たちがいるなかで、エンドオブライフ・ケア協会を分母とせず、目指すゴールを共有しながら、地域福祉の視点で連携し、各地の認定 ELC ファシリテーターと連携を図っていく。

(3) 地域コミュニティのレジリエンス強化「折れない心を育てる いのちの授業」

2021 年度に引き続き、講師を育成し、各自が対面ないしオンラインで授業が実施できるよう推進する。講師トレーニングはオンラインで年間 4 回開催。3 か月ごとのサイクルで、受講・評価・認定プロセスを運用する。

また、認定後、講師が自信を持ってオンラインなどで授業を実施できるようになったり、学校等の場へ提案に伺えるようになったりすることを目指し、認定講師がお互いの経験から学び合える学習会を毎月開催する。その企画・運営も、認定講師が主体となって行えるようサポートする。

認定講師が活躍できる場を増やしていくべく、エンドオブライフ・ケア協会からも各所へ働きかけていく。特に、特定地域において、学校や自治会や NPO 等とまちづくりの視点で面での展開を試行する。

なお、持続的な運用に向けては、教材の拡充、プロモーションも重要であると考えたとき、今後は活動資金の確保が大きな課題となる。寄付、助成、企業連携等の可能性を検討する。

(4) 社会課題と活動への関心を育む取り組み

2022 年度も、学会・研究会等における教育講演、ポスター発表等を通じて活動成果を可視化していく。

活動の関係人口を増やす上で、共通のゴールを目指す様々な他団体との連携や、これまで十分に活用できていない媒体を通して、医療・介護業界に留まらず発信していく。

(5) 現役世代 / 将来世代の「もしも」に備える

職種を問わず、対人援助に関心のある方であればどなたでも参加できる機会として、問いをベースにした対話型オンラインイベント「新型コロナ・ショックに備えて最強のチームを作ろう」改め、「ユニバーサル・ホスピスマインドをもとに最強のチームを作ろう」を、今年度も毎月第三火曜日に開催していく。

さらに、将来世代が活動に関心を示し、自発的に学べる機会を応援すべく、認定 ELC ファシリテーターや認定講師が繋がりを持つ専門学校や大学等において、自主的な学習会をサポートする。

III. 法人運営

(1) 強みの言語化と発信

ホスピスという、解決が難しい苦しみと関わる現場で学んできた、答えのないところの問題に向き合うためのアプローチである、ホスピスマインド。それを、一部の専門家が一部の人だけを対象に行うのではなく、人生のあらゆる段階で、自分や大切な人の心のケアができるように、ユニバーサル・デザインからヒントを得て、ユニバーサル・ホスピスマインドという名称でコンセプトをまとめている。第三者からの協力のもと、ステートメント、シンボルマーク、イメージ動画を作成し、イベント等に連動して紹介していく。

また、これまで繋がりを持った方々との関係性強化、ならびに、関係人口の広がりを視野に、YouTube チャンネルや Twitter 等、SNS を効果的に活用していく。

(2) ホームページ等媒体の整理とプロボノとの協働

活動の広がりに伴い、複雑化している情報の裏側（システム側）を改修してきたが、ユーザーのインターフェースとなるホームページについて、今年度ユーザビリティの改善を行う。これにあたり、知見のあるプロボノに支援していただく。

IV. 2022 年度計画

事業名/活動内容	実施日・頻度等	実施場所	人数 (人)
(1) 「人生の最終段階」に対応できる人材の育成			
「エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座」 (公開講座)	年 16 回	オンライン	240
「エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座」 (インハウス研修)	年 4 回程度	各地域	160
「認定エンドオブライフ・ケア援助士」の認定	通年	事業所	100
(2) 職種や世代を超えて学び、実践するためのコミュニティを支援する活動			
「認定 ELC ファシリテーター」の認定・更新	通年	事業所	20
地域学習会 (認定 ELC ファシリテーターによる学習会)	通年	オンライン/ 各地域	3,500
(3) 地域コミュニティのレジリエンス強化「折れない心を育てる いのちの授業」			
認定講師による授業	通年	オンライン/ 各地域	8,000
講師トレーニング	年 4 回	オンライン	120
「折れない心を育てる いのちの授業 認定講師」の認定	通年	オンライン	40
認定講師の学び合い	年 12 回	オンライン	360
(4) 社会課題と活動への関心を育む取り組み			
書籍出版	通年	－	－
メディア掲載・出演	通年	－	－
研究・学会発表・論文投稿	通年	－	－
(5) 現役世代 / 将来世代の「もしも」に備える			
設立 7 周年シンポジウム	2022/4/16	オンライン	300
「ユニバーサル・ホスピスマインドをもとに最強のチーム を作ろう」	毎月第 3 火曜日	オンライン	600
他団体連携 (地域福祉に関わる活動)	通年	－	－

以上